

みどりやま防災ニュース

保存版 防災備蓄特集 「おもな日常品」

発行:三輪緑山自治会自主防災隊編集委員会 三輪緑山3-1-13 ☎044-987-7495

備蓄品 防災トイレ

災害時は水道管の破損などによって断水し、トイレで排泄物を流せない恐れがあります。非常用トイレは、ポリ袋を便器にセットして、使用後に排泄物を固め、ゴミとして廃棄できるタイプが一般的です。万が一自宅で保管することになっても、臭いが漏れないように工夫されています。東日本大震災の際に千葉では、約1か月間も水洗トイレが使えない地域がありました。仮設トイレが設置されても、被災者の長蛇の列ができます。さらに、衛生環境の悪化で、水分を控えてトイレを我慢する人が続出しました。だからといって、トイレを我慢し続けると体調を崩して命にもかかわります。そこで備えたいのが「防災トイレ」です。おもに凝固剤タイプと吸収シートタイプがあり、**目安は1人1日5回、1週間分で35回分の備蓄**が必要です。

さまざまな種類の携帯トイレ



防災トイレの使い方

便座を上げて、ゴミ袋(青いポリ袋)などをかぶせる便座を下ろして、防災トイレ(黒いポリ袋)をとりつける

1. 便器の中には水がたまっているため、防災トイレの底に水がつくと取り出したときに水が垂れる。それを防ぐため、便座を上げてゴミ袋などをかぶせる。(写真の青いポリ袋)
2. 便座を下ろし、その上から防災トイレ(写真の黒いポリ袋)をとりつける。



3. 排泄後、凝固剤を黒いポリ袋に入れるとすぐに固まる。
4. ニオイが漏れないように防災1トイレ(黒いポリ袋)を十分に縛り、フタつきのバケツなどに捨てる。
5. 多くは可燃ゴミ扱い。念のため自治体に確認し、ゴミの回収が始まったら捨てる。

調理器具

ライフラインが使えない生活では、食事のための調理器具も必要になります。
カセットコンロや調理用マルチツールを備蓄品として用意しておくといでしょう。

【調理器具の例】

カセットコンロ

カセットボンベ：**おおむね6本(1週間分)**

調理用マルチツール(缶切り・ナイフなど)



備蓄品 携帯ラジオ

最新の災害情報を得るのに必要なだけでなく、給水車などライフラインに関する情報も入手できます。
予備の電源・電池も備蓄しましょう。
携帯電話は電池容量が減少するので、災害情報入手への長時間使用は控えましょう。

携帯ラジオ



携帯電話用充電器



出典:明日をまもるナビ - NHK: 他